

新エネルギーをツールに 循環型社会システムの構築を目指す

視点論点



原田 信隆
環境・エネルギー・ローカルネット
理事長
(札幌商工会議所新エネルギー
ビジネス研究会代表幹事)

新エネルギーをツールとした

新たなビジネスチャンスの創出

地球温暖化問題への意識の高まりや原油価格の高騰等により、「環境」や「エネルギー」に関連したビジネスが注目されていることから、札幌商工会議所では、新エネルギーをツールとした新たなビジネスチャンスの創出を目指すため、精力的な活動をしていたNPO法人燃料電池・水素エネルギーネットワークとともに、20社の参加による「新エネルギービジネス研究会」を平成18年9月に設立しました。

研究会では、単なる勉強会に終わることなく、新たなビジネスモデルを検討し、その事業化を図ることを目指し活動を続けてきています。

そのような中、環境を主要なテーマとするG8サミットの北海道での開催が決まりました。この好機に合わせて何かできないかという議論の中で、各地で同様に活動している組織と連携を図り、サミットに合わせて、新エネルギーを活用した社会システムの構築をアピールしようということで、「環境・エネルギー・ローカルネット」の設立を企画しました。

新エネルギーは、持続可能で環境負荷の低いエネルギーというばかりでなく、地域産業の活性化

や雇用創出、観光振興、またエネルギーの地産地消といったように多面的な効果を併せ持つツールであるとの認識の下、単なる設備・機器の導入や実証実験にとどまらず、その有効活用や有機的な連携を図るため、各地の英知を結集させようとの狙いです。

そこで、全国各地で新エネルギーを活用して地域活性化に取り組んでいる民間団体・自治体等に参画を呼び掛けたところ、賛同が得られたことから、昨年9月に5地域の団体が集まって1回目の設立準備委員会を札幌で開催いたしました。11月には稚内で、本年2月には八戸でと準備会合を重ね、徐々に概要を固めてきました。

他方、さまざまな組織がサミットに合わせていろいろな企画を打ち出し始めたことから、私たちはサミット開催後の7月25日に設立総会を開催し、併せて設立記念フォーラム等を「環境・エネルギー・まちづくりサミット」として札幌市で開催することとしました。

環境・エネルギー・まちづくりサミット

「環境・エネルギー・まちづくりサミット」は7月25日から28日にかけて実施した三つのイベントの総称で、ローカルネットが実施する最初の事業でもありました。

7月25日に開催した「環境・エネルギー・ローカルネット」設立記念フォーラムの第1部では、自然エネルギーで電力と熱需要の100%を賄っているデンマークのサムソ島からエネルギー環境事務所ディレクターのソーレン・ハーマンソン氏が講演、第2部では、経済産業省総合資源エネルギー



調査会の新エネルギー部会長を務める東京工業大学統合研究院の柏木孝夫教授をメインキャスターに、キャスター・小説家の有村かおりさん、稚内、那須、青森で新エネルギーを活用した取り組みを行っている方々と私をパネリストにトークセッションを実施しました。

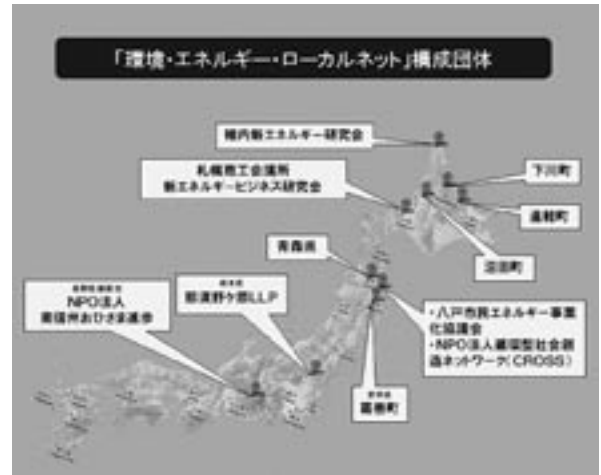
7月26、27日には、サッポロさとらんどで夏休み環境体験イベント「こどもエコランドさっぽろ2008」を開催、子供たちやその家族に環境やエネルギーについて学んでもらう機会を設けました。

7月28日には、地球温暖化対策を積極的に進めている英国から再生可能エネルギーの専門家を招き、英国との環境・エネルギー分野でのビジネス交流を目指して「日英環境ビジネスフォーラム」を開催しました。

いずれのイベントも盛況で、「環境・エネルギー・ローカルネット」の取り組みをアピールできたばかりでなく、参加された企業や市民の方々にも、地球温暖化防止に向けた意識改革や、新エネルギーに対する理解を深めていただけたものと思います。

サミットは終わりではなく、始まり

環境・エネルギー・ローカルネットは、私たち札幌商工会議所新エネルギービジネス研究会と、稚内新エネルギー研究会、那須野ヶ原LLP^{*}、NPO法人循環型社会創造ネットワーク(CROSS)、八戸市民エネルギー事業化協議会、NPO法人南信州おひさま進歩、青森県、岩手県葛巻町、北海道の沼田町、遠軽町、下川町の11団体でスタートしました。



その後、設立記念フォーラムの開催や新聞報道等でローカルネットのことを知った3団体から参加の意向が寄せられ、20強の団体・企業から資料請求をいただきました。

北海道洞爺湖サミットでは、温暖化ガスの半減を目指すビジョンが共有されました。サミットに向けて各機関でさまざまな取り組みが行われましたが、「サミットは終わりではなく、始まり」だとの認識の下、開催地である北海道が率先した取り組みを行い、発信していくことが重要であると考えています。

そうした意味からも、北海道から始まったローカルネットは今後の取り組みが重要です。今後も、団体・自治体などにネットワークを拡大させ、行政、企業といった立場を超えて議論できる場づくりをさらに進めていきたいと考えています。

今後とも「環境・エネルギー・ローカルネット」の活動にご期待下さい。

※ LLP (Limited Liability Partnership) : 有限責任事業組合。平成17年に制度創設された、創業を促し、企業同士のジョイント・ベンチャーや専門的な能力を持つ人材の共同事業を振興するために、民法組合の特例として、①出資者全員の有限責任、②内部自治の徹底、③構成員課税の適用という特徴を併せ持つ事業組合。

profile

原田 信隆 はらだ のぶたか

1954年雨竜郡秩父別町生まれ。'76年武蔵工業大学土木工学科卒業。'77年原田建設工業(株)入社。取締役を経て'95年代表取締役社長に就任、現在に至る。'94年には(株)札幌青年会議所理事長に就任し、「リーグ札幌ホームタウンチーム設立推進協議会会長として、「コンサドール札幌」の誕生に尽力し、現在も札幌地区サッカー協会会長を務める。札幌商工会議所議員、(株)札幌中法人会理事、(財)北海道開拓の村理事、(財)北海道舗装事業協会理事など公職多数。